

平成 28 年度第 1 回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所** 平成 28 年 9 月 8 日 (木) 13:25～15:25
兵庫県立ひょうご女性交流館 「501」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 18-1
- 2 出席者**
- | | | | | |
|-----------|---------|------|------|------|
| (委員 11 名) | 山口委員 | 平野委員 | 倉 委員 | 吉矢委員 |
| | 小山委員 | 鷗木委員 | 増田委員 | 永井委員 |
| | 窪田委員 | 入江委員 | 井原委員 | |
| | 欠席：平川委員 | 尾山委員 | 小林委員 | 三木委員 |
- (幹事 12 名)
- | | | | |
|--------------------|-------|------|-----------|
| ○高永幹事 | 羽原幹事 | 松下幹事 | ○川由幹事 |
| 今後幹事 | ○西田幹事 | 塚本幹事 | ○土屋幹事 |
| 船田幹事 | 八木幹事 | | |
| 升川スポーツ振興課参事 (陪席) | | | |
| 住本兵庫県体育協会事務局長 (陪席) | | | (○印は代理出席) |
| 欠席：大久保幹事 | 清瀬幹事 | | |
- (教育委員会) 中野教育次長
- (事務局) 川崎副課長 榊副課長 岡本主任指導主事兼主幹
内藤主任指導主事 長谷川主任指導主事
- 3 開会あいさつ** 中野教育次長
- 4 委員・幹事紹介** 名簿順による委員自己紹介及び幹事紹介
- 5 署名委員の指名** 署名委員は、会長の指名により、増田委員、永井委員に決定
- 6 前回議事録の報告**
平成 27 年度第 2 回スポーツ推進審議会における報告事項（「平成 28 年度事業概要について」）及び審議事項（「平成 28 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について」、「兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」）について川崎副課長が説明し、承認された。
- 7 報告事項**
- (1) 平成 28 年度の事業概要について
- ① スポーツ振興課に関する事業概要について、八木スポーツ振興課長が報告した。
 - ② 体育保健課に関する事業概要について、船田体育保健課長が報告した。
 - ③ 障害者支援課に関する事業概要について、羽原障害者支援課長が報告した。
- (2) 「兵庫県スポーツ推進計画の進捗状況と平成 28 年度の取組」について
川崎副課長より、詳細を報告した。

- (3) 「日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会」について
榊副課長より、詳細を報告した。

8 審議事項

(1) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

川崎副課長より、「東京オリンピック・パラリンピックの開催を機とした本県スポーツ振興の在り方」とし、4年後の東京オリンピックに向けた選手育成・強化の方策について、ご審議いただきたいことを説明した。

(2) その他

意見なし

9 その他の事項

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項 平成 28 年度の事業概要について」

[児童・生徒等の健康教育・安全教育の充実]

【吉矢委員】

○児童生徒等の健康診断の実施については、本年度から運動器検診というのが義務化された。医師会とも連携をとり、進めると良い。

【船田体育保健課長】

○施行規則の改訂を受け、実施にあたっては、県医師会と連携を図りながら進めている。

[学校における食育の推進と学校給食の普及充実]

【平野委員】

○食育推進計画に「子供と貧困」という項目が入っている。兵庫県の子供食堂の設置はどうなっているのか。

【船田体育保健課長】

○食育推進計画に関して、部局を中心に見直しを行っている。また中学校の食育推進については、スーパー食育スクール支援事業のモデル校として、稲美町立稲美中学校が食育推進プログラムを作成しており、今年度、食育講演会等の事業を通して全県に広めていく。

[第 2 期新兵庫県競技力向上事業]

【鶴木委員】

○未来のスーパーアスリート支援事業で、競技力向上だけでなく、モラル向上を図る試みが必要なのでは。

【八木スポーツ振興課長】

○中央競技団体において取組んでいるが、県でも検討したい。

[運動部活動等への支援]

【井原委員】

○外部指導者派遣事業で、大学生等の派遣は可能か。

【船田体育保健課長】

○現在、運動部活動の指導は、市町または学校独自による対応が行われているが、指導者不足の実態もあり、今後は大学生等の派遣も必要と考えている。

(2) 「日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会」について

【小山委員】

○選手の募集はどうなっているのか。

【八木スポーツ振興課長】

○各都道府県にて、代表選手の決め方が異なっており、既存の大会によって選出する県や競技団体が推薦する成績上位者を代表とする県もある。

(3) 「審議事項(1) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

**【東京オリンピック・パラリンピックの開催を機とした本県スポーツ振興の在り方】
ア リオデジャネイロ・オリンピックについて**

【全体としての感想】

【窪田委員】

○本校生徒（中学生）の中に、「4年後自分自身が出場できるかもしれない」と思い、興味深く、リオオリンピックを観戦していた生徒もいた。

【倉委員】

○オリンピック等で活躍した競技を習わずご家庭も多いように思いますが、幼児期は「楽しく運動する」時期であるので、勝利至上主義に陥らないように、保護者に認識していただきたいと思いながら、観戦していた。

【増田委員】

○オリンピックの卓球競技に障がい者が出場していた。このことで、障がい者もオリンピックに出場できることを示す機会となった。これからは、障がい者の中からもオリンピックに出場する選手が出る可能性があるという認識を持たないといけない。

【小山委員】

○国の取組みもあり、選手の育成・強化が進んでいるが、小さいときからスポーツに親しむことが大切である。今後、クラブ 21 や学校教育などでも選手強化・育成にどう取組むかが課題である。

【鶴木委員】

○20 代の選手は、ジュニアの時代から世界を視野に入れて競技に取組み、当たり前のようにオリンピックに行って、結果を出すことができた。今後は、私たち世代と現役選手が、ともに次世代を育てていかなければならないと感じた。

【永井委員】

○指導者の徹底した技術分析が勝利につながり、また、陸上の 400m リレーの快挙に見るように、選手の創意工夫があった。このあたりが東京オリンピックに向けて鍵になる部分と感じた。

【入江委員】

○メダル数も増え、成果のあった大会と思っている。バドミントンは、ジュニア育成に外国人指導者も取り入れ結果に結びついた。こういう成功の成果を各競技で共有できれば、4年後に大輪が咲くと感じた。

【平野委員】

○リオオリンピックでは、栄養士・管理栄養士が柔道チームをサポートした。栄養面は基本となることであり、裏方の重要性がクローズアップされ良かったと思っている。東京に向けて、更なる公認スポーツ栄養士の活用を望んでいる。

【井原委員】

○2011年から始まったスポーツ立国戦略が着実に実を結んでいる。瞬発系、スピード系、コンタクト系に課題のある日本人には、科学的な面にヒントがあるのではないかと思っている。

【吉矢委員】

○マルチサポートとして、ドクターや栄養面にも予算がつくなど体制が整ったことが好成績につながっている。しかし、競技によっては医科学スタッフが十分でないところもあるので、課題として取組まなければならないように思う。

【小山委員】

○今回は、ボランティアが7万人ほど活動した。やはり国民がどう大会を支えていくのかという視点も必要ではないかと思う。

【山口委員】

○国によるマルチサポート事業が成果を上げている。ジュニア期からタレントを発掘し、育成してきた団体が結果を出しているが、ロンドン大会でそうであったように、選択と集中という方針をとらざるを得ないのではないかと思った。

【本県ゆかりの選手の活躍について】

【山口委員】

○地域をあげた選手育成の取組み事例はあるのか。

【八木スポーツ振興課長】

○八木かなえ選手のように、県立高校で順調に選手育成が成されている例はある。

【入江委員】

○兵庫県は「スポーツ兵庫」といわれていて、出場している選手数は多いが、金メダリストが少ない。今年の高校総体で水泳競技や陸上競技が優勝ラッシュだった。4年後のことを考えると楽しみである。

【選手育成強化の方策について】

【平野委員】

○トップアスリートになるには、栄養（アミノ酸であったりサプリメント）やケガ予防のサポートが必要であることから、コンディショニングの面での強化を県にお願いしたい。

【八木スポーツ振興課長】

- 「未来のスーパーアスリート支援事業」の中で、医師やトレーナー、栄養士等の専門家を派遣出来るようにしている。

【山口委員】

- 「未来のスーパーアスリート支援事業」での派遣の期間はどのくらいであるか。また、費用は全額県から出されているのか。

【住本兵庫県体育協会事務局長】

- 期間については、各競技団体の提案を受け、審査を行い決定している。費用については県より補助を受けており、その中で上限を設け支援している。

【鶴木委員】

- 未成年の選手を含むアスリートの競技力向上を総合的に図っていくプログラムが大事である。また、東京パラリンピックからバドミントンが種目に入ってくる。県内の有望選手は、「アスリート就業支援」を利用し競技に専念しているが、強化プログラムの提供など、県としてマルチサポートを考えていただきたい。

【山口委員】

- ドイツでは、州ごとに国の指定するトレーニングセンターが置かれている。我が国でも数年前からオリンピックやパラリンピックの強化拠点をどのようにしていくかが議論されている。県の場合は、どのように進めているか。

【八木スポーツ振興課長】

- 地域に根付く競技とするために、地域で選手の育成強化を図る拠点化推進事業を展開している。具体的には県体育協会と連携し、スケートなら西宮のアイスアリーナ・神戸ポートアイランド、サッカーは三木防災公園、ホッケーは篠山市の総合スポーツセンター、なぎなたは伊丹市の修道館等を拠点施設に一定額を補助し、地域を挙げて選手の発掘・強化に努めてもらっている。

【平野委員】

- パラリンピック選手へのマルチサポートの状況を教えていただきたい。また、障害者スポーツ選手への栄養サポートはどのような状況なのか。

【羽原障害者支援課長】

- 栄養面では、サポートが出来てない現状である。

【増田委員】

- マルチの中には栄養学はない。各選手については、JTCでサポートされている。これとは別に、日本では、健常者と障害者が別々に練習しているが、外国では一緒に練習する国もある。また、国はメダリストに援助するが、入賞者には何もない。4年後に向けて、練習場所や選手支援等について、県として支援モデルの作成を期待する。

【山口委員】

- 障害者スポーツの情報提供として、第2NTCを整備するということが決定した。共用体育館という名前だが、メインはパラが使用できる。

【永井委員】

○拠点をつくり、ジュニアから育成することが大事である。京都では体育科のある学校を色々な地域においている。さらに加えて私学でも強いところがある。勝つためにはNTCのような拠点をどうやって位置づけるかを考えないといけない。

【井原委員】

○県の政策等を見ると、スポーツクラブ 21 は、スポーツを勧める・広めるといった意味では有効な戦略だと思うが、公的な面だけでなく民間のスクールと連携を図った取り組みができれば、競技力向上とスポーツを楽しむというところで年齢層含め、幅広いスポーツへの取り組みが可能になるのではないかと思う。

【入江委員】

○選手にとっては、雇用や練習環境が整っていない競技もある。競技施設の優先使用、助成等の支援が必要である。また、そのための専門会議があってもよいのではないか。

【小山委員】

○兵庫県ゆかりの選手がたくさん出場していることを県民に知っていただくことが大切ではないかと思うので、広報媒体を使った積極的な働きかけをお願いしたい。

11 閉会あいさつ 八木スポーツ振興課長

12 閉 会